

# 「夏風邪」現状と対策

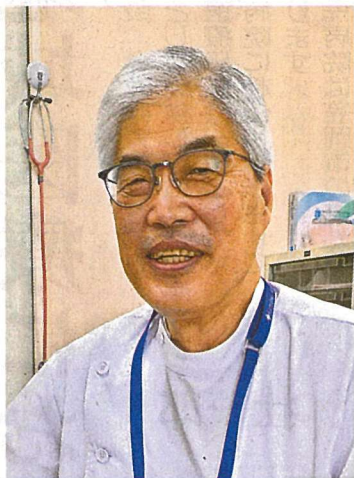
## ◆夏に気を付けたい感染症

	症状	原因
手足口病	手のひらや足の裏、口の中などに赤い発疹や水疱ができる。痛みやかゆみがある	エンテロウイルス
ヘルパンギーナ	口の奥に水疱ができて痛みや高熱を伴う	エンテロウイルス
咽頭結膜熱(プール熱)	目が充血し、喉が赤く腫れて痛い。高熱を伴う。学校感染症の第2種に指定されている	アデノウイルス
RSウイルス感染症	初期は風邪に似た症状。重症化すると細気管支炎や肺炎を起こす	RSウイルス

乳幼児を中心に夏場に流行するのが「夏風邪」だ。代表選手が「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱(プール熱)」で、いずれもウイルス性の感染症。この三つに加え、近年は「RSウイルス」の流行も見られるようになった。多くは軽症で自然に治るが、重症化すると命に関わるケースもある。倉敷成人病センター(倉敷市白楽町)小児科部長の中島英和医師に、現状と対策について話を聞いた。

倉敷成人病センター(倉敷市白楽町)

小児科部長 中島 英和医師



■手足口病 口の粘膜や手のひら、足の裏に小さな水疱性の発疹が出て、痛みやかゆみを伴う。中島医師によると、昨年は腕や膝、おなかなど体のあちこちに水疱が出るタイプが現れ、水疱瘡ではないかと疑ったと言った。原因となるウイルスの種類が多いため、いろいろな発症のタイプがある。

くしゃみやせきなどによる飛沫感染や接触感染、便でも感染する。安静にしていれば数日間で自然に治るが、症状が治まっても唾液から2週間、便からは4週間にわたってウイルスが排出されるので、周囲への感染に注意が必要。

中島医師は「口の中が痛んで飲んだり食べたりが難しくなるので、脱水症状には気を付けて」と注意を促す。基本的には「食べて、遊べていれば、まず大丈夫」だが、尿の回数が減ったり、ぐったりしていたら、すぐに受診を考慮すべきだとしている。

■ヘルパンギーナ 手足口病と

## RSウイルス近年流行

同じタイプのウイルスが原因。飛沫や接触によって感染する。発症すると口の奥に水疱ができて痛みや発熱を伴う。発熱時に熱性けいれんが起ることがある。手足口病と同様に、食事や水分がとりにくくなるので、脱水症状には注意が必要。数日間で自然に治る。

■咽頭結膜熱(プール熱) プールの水を介して流行することがあるためプール熱とも呼ばれる。感染力が強く、学校感染症の第2種に指定され、発病すると通学・通園が禁止となる。こまめな手洗い、感染者が触ったおもちゃやドアノブなどの消毒に加え、おむつの交換時など排便後の適切な処理が感染を広げないためには必要だ。

症状は、目が充血し、喉が赤く腫れて痛みを伴い、38〜40度の高熱を発する。「水分摂取ができなくなったら点滴が必要となるので受診してほしい」

■RSウイルス 「以前は冬の病気と言われていたが、近年、夏に流行するようになった」と中島医師。2歳までにほぼ全員が感染する。初期症状は通常の風邪に似ているため見分けにくい。多くは軽症で治まるが、重症化するとせきがひどくなって呼吸困難となり、細気管支炎や肺炎へと進んでいく。「ヒューヒュー、ゼーゼーとひどく苦しむ。乳幼児にはしんどい病気だ。場合によっては命に関わることもある」と話す。

飛沫や接触によって感染する。多くは家族や学校園など集団内部でかかりやすい。「いつもの風邪とは様子が違う、しんどそうだ、そう思ったなら早めに受診するべきだ」と中島医師。予防法は「バランスよく食べ、疲れを貯めないようにしっかりと眠ること」。治療薬はなく発熱やせきを抑える対症療法のみ。重症化リスクの高い呼吸器や心臓に障害のある乳幼児、早産児、ダウン症児などに対しては、予防のための抗体薬「シナジス」の投与が保険診療で行われている。